

二月五日

五時半眼覚めてしまう。午前中カバークラムのスタイルで銅版画ギャラリーのオープニングを四枚書く。午後研究室へ。結城登美雄親子より農村計画へのコメント届いた。特に息子さんからのが手厳しかった。社会経験のある程度積んだスタッフを担当に当たっているのだが、私の感想通り彼等の消費生活者ボケは凄惨なものがある。結城Jrの指摘する通り都市の住区計画みたいだ、は誠にもその通りで面目ない。しかし、今更それを直せと言っても仕方ない事で、要は都市の典型的な消費生活市民として最大級の想像力を働かせる必要があるのと、その想像力がそれぞれに自己批判の様相を帯びざるを得ない事の自覚だろう。担当の二人はしかしそのボケを直す努力、つまり自己批評の徹底を一度試みないと本当に感性の鈍い口バのまんまで終わるだろうな。早く気付いて欲しいが・・・。

二月六日 日曜日

十一時過ぎ、気仙沼市役所の昆野武裕氏依頼のリアスアーク美術館原稿書き上げる。心残りとして。唐桑、気仙沼には色んな想いが今も残る。忘れられぬ人物も多い。私の個人史の中では大きい。十二時四五分コーヒーショップで他の雑原稿書き終える。十五時半迄、庭作り。と言っても捨てずに残しておいた旧屋の屋根瓦を少しばかり運び移してガランどうに空き地になったままに放置して廃園状態になったままの一階の庭に垣根を作り始めた

け。少しだけの作業だったが汗ばんだ。自作の瓦垣根は我ながら不細工で笑ってしまう。ゆきあたりバツタリの制作も良いが、やっぱり瓦を知らな過ぎる。ブリコロールの身体とは程遠いねコレワ。口程にない。しかし、少しづつやれば良い。春になったら少しはましな垣根にしたい。庭にあるものだけで作るうという原則は変えない。十七時烏山のネパール料理屋で夕食。十九時半世田谷村に戻る。二〇時寝てしまう。

二月七日

三時半目覚めてしまい一服。コラム一本書く。又眠りに入る。九時十五分研究室。二〇分CEMA打合わせ。十時修士論文発表会。古谷研渡辺研。今年は両研究室共低調だった。十八時修了。いささか疲れた。雑打合わせをして二十一時前世田谷村に戻る。研究室、世田谷村共に大阪のM氏より便り届く。塩野君からも。